

あっ、こっちは…

松浦 純子

昨年十二月下旬に中東のカタール航空でローマに行った。

座席のスカイマップを食い入るように見た。地名や速度などを表したアラビア語の画面が三回、英語の画面が三回変わるとカーバのあるメッカの方向を指し示す方位磁針が現われる。そしてメッカまで何キロという数字も出てくる。ヨーロッパの航空会社を使っていた時はロシア上空を飛び、ニジニ・ノヴゴロド、モスクワ、サンクトペテルブルクなどの地名が出てきたが、今回はイスラームの地名がたくさん出てくる。眠っていた記憶を呼び覚まして興味深く地図を見た。

成田を出て、北京上空を通り、カザフスタンのアルマトイまで西へ西へと進む。アルマトイはカザフ語で、以前はロシア語でアルマアタといった。一九九一年十二月に十二か国からなるソ連が解体した二週間後に、グルジアを除く十一ヶ国がアルマアタ宣言を出して独立国家共同体の設立を宣言した場所だ。ここから航路を南西にとりティムール帝国の最初の首都サマルカンド、サファヴィー朝の新都イスファハーンの上空を通り、カタールの首都ドーハへと向かう。ドーハに着いた日はカタールの建国記念日で、*Qatar National Day*と書かれた小さな箱に入ったお菓子が配られた。

ドーハからはペルシア湾を北上して、湾岸戦争で爆撃を受けたバスラ、アッバース朝やイラクの首都バグダード上空へ。このまま北上を続けると黒海からウクライナへ入ってしまう、早く西へ曲って！と祈りながら地図を見ていたらアナトリア半島を西進し、トルコ共和国の首都アンカラ、オスマン帝国の最初の首都ブルサを通りバルカン半島へ。あとはアドリア海を抜ければイタリアだ。

帰りはローマから南東方向へ進み、スパルタのあるペロポネソス半島へ。このまま南東へ行けばガザ上空へ。またも早く南へ曲って！と祈っていたら、ガザを迂回してシナイ半島へ。第三次中東戦争の勃発地アカバを通ってサウジアラビア上空を南東に進み無事ドーハへ着いた。ここまでくれば一安心だ。

Flight Route

